

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

# つ の ぶ え



社会福祉法人  
**小羊学園**

〒433-8105  
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12  
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707  
E-mail kohitsuji@imix.or.jp  
H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人  
印刷所：SR S株式会社  
定 価：一部30円  
2013年8月20日  
第**363**号

## ヤスオさん逝く

理事長 稲松 義人

先月半ば過ぎ、ヤスオさんを天に送りました。52歳でした。

ヤスオさんは、5歳で重度・重複の障がいのある子どもたちの施設小羊学園に入所し、その後成人して小羊学園青年寮に籍を移し、小羊学園児童寮・青年寮の新築移転後、みんなと一緒に引越して三方原スクエア成人部に在籍して生活していました。文字通りヤスオさんの人生は小羊学園の歴史とともにありました。

ダウン症で、重度の知的障がい併せて全盲、いわゆる重複障がい者であったヤスオさんは、日常生活のほぼすべてが全面介助でしたが、耳から聞いて覚えた言葉をいくつか話すことができました。歌が好きで、若い頃はレコードをかけてと体を床にすわり前屈して身体を二つ折りにしたまま左右に揺すっていた姿を思い出します。機嫌がよいとこどもさんびかや童謡のフレーズを口ずさむこともあり、みんなに可愛がられました。お散歩のときは、後ろから抱えるように身体を密着して歩くと、スムーズに足を運んでくれました。ヤスオさんを後ろから抱えて身体を左右に揺すりながら、大好きな歌を歌いながらよくお散歩し

ました。頑固な一面もあり、慣れない人には食事や散歩などに誘ってもなかなか応じてくれず、特に新職員の頃は随分苦勞させられました。それでもいつの頃からか、実習にきた学生さんの食事介助も素直に食事するようになりました。年をとってまろくなったのでしょうか。

そんなヤスオさんですが、ここ数年身体機能が急激に落ち、嚥下も思うようにできず誤嚥による肺炎を避けるために経管栄養で食事をするようになりました。日常生活の介護において、いわゆる医療的ケアが必要になると今の三方原スクエアでは対応できず、必要なケアをしてもらえる福祉施設に移れる間、療養型病院に入院してもらうことになりました。職員たちは、入院中にも身体機能がかなり落ちていることを心配していました。先月半ば過ぎ、ずっと頑張っていたヤスオさんの生命力もついに尽きてしまいました。最後まで小羊学園でケアできなかったことに申し訳ないような気持ちもありますが、三方原スクエアに在籍のまま天国に送ることができたことは、晩年お世話した職員たちにとつてはせめてもの慰めだったかも知れません。

長く生活してきた小羊学園で弔いをしてほしいというご家族の意向から、亡くなった翌日、三方原スクエアでお別れ会(葬儀)をすることになりました。訃報をきいた旧い職員たちが何人も参列し

てくださいました。日をあらためたなされた火葬の場にも、旧職員など大勢お別れにきてくれました。あらためて、ヤスオさんと過ごした日々を懐かしく思い出してくれる人たちがこんなにたくさんいたのだと思われました。

昔は「こんにちわ」と声をかけると「コンチワ」と返してくれたのですが、私が知っているここ一年くらいのヤスオさんは、眠っているのか起きているのか、声をかけたときの反応もよく感じました。笑顔を見ることができないのは、関係をもつ者にとっては寂しいものです。最後の入院のときにどんな表情をしていたのか、私は直接見る機会がありませんでしたが、お別れ会の際に見た、棺に納められたヤスオさんの表情は、心なしか微笑んでいるように穏やかな印象でした。

今はもう、ヤスオさんに会うことはできなくなりました。でも、ヤスオさんとのたくさんさんの思い出は、関わりをもった者たちにとって、大切な記憶であり、これから生きていくうえでのチカラの一部になっているような気がします。小羊学園の働きを通して出会った一人ひとりが、ヤスオさんのように周りの人たちが慈しまれ、いつまでもつながりを感じられるような存在であってほしいと願います。そのことのために、小羊学園の働きがなされてきたような気がします。

平成25年度小羊学園公開講演会

## 「静岡の社会福祉史における山浦俊治」

講演 神田 均氏

静岡県ボランティア協会理事長・元小羊学園役員

7月の初め、聖隷クリストファー大学の  
大教室をお借りし、小羊学園創立記念  
公開講演会を開催しました。三年後の  
創立50周年に向けて、昨年から創立者山  
浦俊治の足跡から学ぶことを意図した  
講演会を企画しています。今年度は、山  
浦俊治氏と永年にわたって親交があり、  
静岡県内で様々な立場で社会福祉の仕  
事に携わってこられた神田均氏に講師を  
お願いしました。

歴史的に聖隷関係の実践に見られる  
時代に先駆けた取り組みの中で、小羊学  
園と山浦俊治氏もまた特筆すべき、意義  
深い実践であったこと。公私にわたった交  
友からのエピソードを通して、山浦氏から  
受けた影響などをご講演いただき、現在  
の職員など集まった人たちにメッセージ  
を頂きました。

### はじめに(聖隷の歴史と私)

この聖隷の地を訪れるのは7〜8年  
振りでしょうか。今日、ここへ来る前に聖  
隷歴史資料館を見学いたしました。聖  
隷の言い知れない伝統の重みを感じま

した。特に先程は、山浦さんの肉声を久  
しぶりに聞かせていただき、心から山浦  
さんとの交流の場面を通じてお話をさ  
せていただきたいと思います。

山浦さんは私より2期上の社会事業  
学校の先輩で、同窓のよしみもあつて、  
大変親しくさせていただきました。

聖隷が生まれた年と同じ昭和5年に  
私も生まれました。聖隷福祉事業団の  
長谷川力さんも同じ昭和5年生まれで  
す。昭和28年に郡の社会福祉協議会事  
務局職員として西遠福祉事務所働き  
始め、聖隷の地を初めて訪れたのは、同  
年夏頃でしたでしょうか。ケースワーク  
の第一人者であった仲村優一先生をかこ  
む勉強会が聖隷の集会所で行われ、翌  
日初めて教会の礼拝にも参加しました。



その後、昭和34年に県職員的生活保  
護ケースワーカーから入り様々な福祉  
業務を歴任し昭和62年に県を退職いた  
しました。県職員時代には、たびたび聖  
隷を訪れたものです。退職後間もなく、  
山浦さんから小羊学園の監事をやって  
くれないかとお話をもらい、以後、監事・  
理事として16年間役員をやらせていた  
できました。ですから、聖隷や小羊学園  
の方々とは多くの交流をさせていた  
きました。

### 常にパイオニアとして

聖隷全体の日本における立場のよう  
なものを冒頭紹介したいと思えます。5  
年ほど前に焼津市にある静岡福祉大学  
で4年生にむけて、「静岡県の福祉の歴  
史について」特別講義をした時、パイオ  
ニアとして10項目挙げてみました。その  
中で6項目が聖隷関係になります。ある  
意味で日本の戦後福祉の先達として聖  
隷が大きな働きをしたと感しました。こ  
のことについて、山浦さんと十字の園初

代理事長の鈴木生二氏が問答をしてい  
るんですね。「我々のような仕事で源平  
合戦の宇治川での先陣争いのような意  
識を持つことは如何なものか。」鈴木生  
二氏も「全く同感。我々が最初に始めた  
といつても、その背後には長い福祉の歴  
史があり、日本で第1号というのは先輩  
方に失礼ではないか」と謙虚な考え方で

おられました。

十字の園や小羊学園の事は後に触れ  
ますので、それ以外で聖隷集団のパイオ  
ニアとしての実践を紹介します。長谷川  
保先生が、将来の高齢化社会を見越し  
て建設した有料老人ホーム「浜名湖エデ  
ンの園(昭和48年)」。ベトナム戦争終了  
後に祖国を捨てて脱出し、日本に入国し  
たベトナム難民の援護施設「愛光寮」  
(昭和52年)。国が介護従事者の養成校  
を作るのにモデルとした介護従事者養  
成校「聖隷ヘルパー学園(昭和53年)」。  
後に聖隷介護福祉専門学校となり、山  
浦さんの後に私も障害者福祉関係の講  
義を受け持ちました。また、山浦さんも  
ガン末期の最期を過ごされた「聖隷ホス  
ピス病棟(昭和56年)も、聖隷集団が先  
駆的な事業として挙げられるものです。  
10項目には入れませんでした。「未熟  
児センター」や「ドクターヘリ」なども全  
国的にも評価して良い事業だと思いま  
す。

### 静岡の福祉を創った人々

#### 〜山浦さんの綴った人物史〜

日本社会事業大学の卒業生を中心と  
して昭和57年頃から「静岡福祉セミナ  
ー」の開催や、県内先覚者の人物史を毎  
年2〜3人紹介しました。10年に亘り  
31名の人物史を紹介しましたが、その中  
で山浦さんが8名の人物史を綴りまし

た。平成5年に「みちしるべ 静岡の福祉を創った人々」という題で冊子にまとめました。山浦さんが綴った人物は、①大野董二氏・長谷川保氏とともに、聖隷創立者の一人で「聖なるものの奴隷になろう」と名付け親になられたと言われている。②岩下壮一氏・ハンセン病患者の病院としては最も長い歴史を持っている御殿場市の神山復生病院6代目院長、③鈴木大隆氏・明治32年遠江救護院の創設者、④井上哲雄氏・中国残留孤児救済のための館山寺子供の家福音寮の創設者、⑤木全大孝氏・遠州仏教積善会で慈照園長、⑥影山学氏・戦後、県内唯一の宿泊提供施設「慈悲庵」の創設者、⑦井深八重氏・神山復生病院看護婦長で日本初のナイチンゲール賞を受賞。井深氏の部下に山浦さんの姉がいた。⑧鈴木生二氏・日本初の特別養護老人ホーム十字の園創設者、の8名です。

重度障害者問題と小羊学園の創立

昭和24年身体障害者福祉法、昭和35年に精神薄弱者福祉法が制定。しかし、重度者はあまり対象にされていない、もちろん重複障害者も取り残されています。昭和38年、作家水上勉氏が中央公論6月号に「拜啓池田総理大臣殿」という書簡を掲載。一躍、重症心身障害児問題が取り上げられた。時を同じくして

昭和39年頃から、山浦さんも小羊学園設立に向け動き出しています。大学同級生で県職員の大森圭三郎氏も小羊学園創立の必要性に共感し、県を挙げて応援してくれたそうです。昭和41年に重度障害児施設「小羊学園」が創立され、昭和48年重症心身障害児施設「おおぞらの家」、昭和53年知的障害者更生施設「若樹学園」、さらには、昭和60年知的障害者更生施設「小羊学園青年寮」を建設していきました。



山浦さんとの交流あれこれ

①国際障害者年と静岡福祉セミナー

日本に初めて「ノーマライゼーション」の理念が入ってきたのは、昭和56年の国際障害者年でした。この年は県の国際障害者年担当主幹として様々な役割も担いました。向こう10年間の静岡県障害者対策長期行動計画の策定で、関係部局との調整に奔走していたころ、日本社会事業大学の地方学会を静岡県で開催することとなりました。同窓生や母

校の教師が講師やシンポジストを務め、山浦さんには福祉施設の立場から問題提起していただきました。

また、将来に残す資料を作成しようと、先ほど述べた先覚者シリーズを発行することになりました。

②中日新聞社会功労賞

私が西部民生事務所長として勤めていた昭和61年、中日新聞社会功労賞の候補者選定に関わる中で、候補者に山浦さんの名前もありました。もちろん、これまでの功績を考え当然のことだと推薦しました。受賞の後年、小羊学園を訪れると応接間の壁にこの表彰状が飾られており、山浦さんにとっても大変嬉しいものであったと思います。

③日本社会事業大学学会「木田賞」

私事ですが、昭和62年に県職員を退職した後、菊川市にある社会福祉法人和松会の清松園の施設長になりました。小羊学園から清松園に移ってきた利用者もおります。身障療護施設の東海・北陸ブロックの研修会の当番施設を清松園が行うことになり、記念講演を山浦さんにお願いしました。

平成7年に日本社会事業大学学会から、学会賞である「木田賞」を頂く運びとなり、授賞式に参加しましたが、その時に過去の受賞者として平成元年に山浦さんが受賞されていることを知りました。山浦さんは論文部門での受賞でしたが、私に言わせれば実践部門も併せて

もらっても良いと思えます。

私が受賞したのは平成7年で、山浦さんが急逝した5か月後の事でしたので、受賞挨拶で、山浦さんにまずご報告したいと感謝の言葉を述べたことを覚えております。

④京都・宇治(万福寺)周遊

社会事業研究会のメンバーで和尙でもあり保育園を営む永田泰嶺氏が京都・宇治にあります大本山万福寺の宗務総長という役に就かれました。永田氏から遊びにおいでと誘われ、私や山浦さんメンバーで遊びに行きました。昭和54頃年のことでした。精進料理を御馳走になった後、お酒が飲めず早々に床に就いた山浦さんの枕もとで、残りのメンバーで酒を酌み交わし議論をしていました。このことが山浦さんには印象深かったようでした。平成6年12月聖隷三方原病院ホスピス病棟に入院された山浦さんは、私が見舞いに駆け付けた日には面会謝絶になっておりました。明子夫人が少しの時間であれば…と病室に通してもらいました。驚くほど滔々と話される中で、お酒の飲めない自分によく付き合ってくれたとお話があり、京都・宇治の夜のこと山浦さんの心に残っていたと思えたのです。

むすびに「心のともしびをしのびて」

山浦さんは遺言の中で「私のやってき

たことはすべて神さまの命ずるままお手伝いしただけだ。創設者としての業績や記念的事など一切無用にしてもらいたい」と話されたそうです。でも残された私たちは山浦さんの思想や哲学など精神の奥底にあったものを忘れてはいけないと思うのです。

山浦さんが書かれた本が3冊あります。「この子らは光栄を異にす」「この子らからの贈り物」「この子らに愛を教えられて」。あるいは学会賞を受賞した論文などもあります。それらの中から考えていくべきものがあるのではないかと思います。



昭和61年の20周年から毎週1回3分間のテレフォンメッセージを全国に向かって「心のともしび」として9年間発信し続けました。私は毎週のようにダイヤルを回し続けました。平成2年にはNHK教育テレビ「こころの時代」に出演した時は、テレフォンメッセージに全国から電話が殺到し受信装置がパンクしたそうです。聖隷歴史資料館にその原

稿が展示されています。メッセージの中心としては非常に重い内容のものも、山浦さん特有の表現や柔らかな口調が、聞いている人の心にパッと入ってくるものでした。語り部としても名手でしたので、遠くは青森まで全国で講演をされていたようです。入院前の最後の講演は、大井川町で行われましたが、その時には身体がしんどかったようで、立つて講演することができなかつたそうです。私は現在静岡福祉医療専門学校で週1回社会福祉施設経営論の講義を持っています。近年は制度が変わり、目まぐるしく変化する情勢の中で、福祉のあり方をもう一度問い直す時期であると思います。福祉の根本である思想や哲学についても考えていかなければと思います。

最後に、天におられる山浦さんにご報告申し上げたいことがあります。東日本大震災では、聖隷福祉事業団から県ボランティア協会に多額の支援金を頂きました。これを資金として岩手県遠野市に被災地支援の拠点基地を設置し、2年間に3500人のボランティアを送り出すことができました。現在は、遠野市の拠点は閉所し、新たに釜石市・大槌町に「三陸ふじのくに絆ハウス」という多角的集会場を設置しています。時間とともに震災が風化しています。どうぞ今も困難を抱える被災地のことを忘れないでください。

ご清聴ありがとうございました(元)

### 三方原スクエアE棟増築工事

三方原スクエア成人部では加齢や基礎疾患により、身体機能が著しく低下した利用者が増加し、車椅子で生活される方も多く、現在の生活空間では狭くなってきました。今回、E棟ウッドデッキを改修し、リビング・浴室等を身体障がい者対応できるように、7月下旬より工事を行っています。また、保護者会の支援もいただき、玄関エントランス庇取り付け工事を行う予定です。

## オリーブ祭り

日時 25年9月14日(土) 10時30分～14時30分  
 ところ オリーブの樹  
 (浜松市浜北区尾野 462-2)  
 イベント 模擬店・バザー・授産製品販売  
 家康くんとのふれあい&ダンス  
 問合せ オリーブの樹  
 TEL: 582-3415



出世大名 家康くん

家康くんが来るよ!

みなも来るのじゃ!

## 小羊学園を支える会

### 2013年度寄付金報告

6月受付分	205,000円 ( 18件)
累計	632,149円 ( 63件)

### 小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座	00800-8-107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店	当座預金0107785
口座名義	社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。  
 小羊学園を支える会事務局(鈴木)  
 三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833

## 編集後記

夏の夜空を彩る花火大会がこの時期、各地で開催される中、鹿島の花火大会に出掛けてきた。昨年に比べるとスポンサーの数が増え花火が豪華になり、景気が上向いているのかなとも思えた。アベノミクスの効果が庶民には実感できないが、政府は消費税アップに向かっている。財政破たんを回避するための措置を講ずる必要性は認められるが、収支バランスの見直しと本来必要な社会保障まで削られないことを社会福祉従事者として願う。

猛暑が続く体調管理が難しい今日この頃です。どうぞお身体ご自愛ください。